

## 瀬戸内市太陽のまち創生有識者会議 意見要旨

日時 平成 30 年 7 月 4 日 (水)

午前 10 時～正午

場所 瀬戸内市役所 2 階 大会議室

### ●平成 29 年度地方創生関連事業の効果検証について（意見交換・質疑応答）

#### 1 仕事づくりを核とした移住・まちづくり連携事業（地方創生推進交付金活用事業）

##### 資料 1

##### 【委員】

テレワークはすでに行われているのか。どのような仕事をしているのか。

##### 【企画振興課】

現在、実際に市内で従事いただいているテレワーカーが延べ 23 人いる。内訳は子育て世代の方が 10 名、介護をされている方が 8 名、移住者の方が 5 名。男女の比率は男性 7 人、女性 16 人で女性の割合が高くなっている。仕事の内容はアプリの開発やアプリを説明するためのマニュアルの作成、単に PDF 保存のみの業務など幅広く、スキルに応じて行っていただいている。

##### 【委員】

仕事を提供する企業はどこか。

##### 【企画振興課】

株式会社富士通エフサスとストックウェザー株式会社の 2 社。

##### 【委員】

実証実験段階からこの 2 社が関わっていたのか。

##### 【企画振興課】

平成 27 年度から富士通エフサスと提携をして実証実験をしていた。その後、テレワークをさらに拡大・普及させるため、平成 29 年度に新規企業の受け入れのための募集を行い、ストックウェザーを採択した。

##### 【委員】

今後、サテライトオフィスを設けることも検討しているのか。

##### 【企画振興課】

提携している企業からも、瀬戸内市に拠点を構えたいという相談があり、前向きに進めていただいている。将来的には、テレワーカー同士が交わって仕事ができる場所（テレワークセンター）を設けたいと考えている。

##### 【委員】

現状は在宅で仕事を行っているのか。

##### 【企画振興課】

現状は在宅で行っているが、テレワーカーの友達同士で Wi-Fi が整備されている市民図書館で仕事をされることもあると聞いている。

**【委員】**

テレワークで生計を立てている人がいるのか。

**【企画振興課】**

生計を立てているのは1人のみ。あとは副収入的に仕事をしている。仕事の供給量とスキルのマッチングが難しい。

**【委員】**

テレワークとしては、岡山県内で進んでいる自治体と思うか。

**【企画振興課】**

県内の自治体でテレワークを行っているのは瀬戸内市と新庄村だと聞いているので、進んでいるほうだと思う。

**【委員】**

市が考える移住者のイメージ像を教えてください。

**【企画振興課】**

総合戦略や人口ビジョンでは若年層の転出傾向が著しいことから、若い世代に向けた取組が必要であると考えているが、世代を問わず柔軟な受け入れを行っているのが現状である。

**【委員】**

住環境の良さというよりは、ある会社に勤めたいから移住するというケースが多いのではないかと。実際にそういう方が移住のターゲットになるのであれば、雇用先である企業に瀬戸内市を選んでもらうことが重要。

**【企画振興課】**

住まいがあっても仕事がなければ移住は難しいと思う。仕事の部分で移住に対してハードルがあると思うので、瀬戸内市役所1階にあるハローワークなどと連携しながら仕事の提供を行っていききたい。

**【委員】**

地元でも人手不足で困っている会社があるので協力してほしい。

**【委員】**

今後実施予定の主な事業には「テレワーク推進事業」「協働の空き家活用補助事業」の2つしか記載がないが、それ以外には実施しないのか。

**【企画振興課】**

平成29年度に実施した映画館での移住PR動画の上映や体験ツアーは実施しない。お試し住宅についてはH28～H29年度に整備が完了している。瀬戸内市では移住推進員を中心としてIJUコンシェルジュや地域おこし協力隊と移住協議会を設置しており、その中で取組を行っていただく予定。ホスピタリティの向上に関する事業は、昨年度に作成した社会科副教材を使って小学校4年生に対して授業を行う予定。地方創生推進交付金の事業としては2事業であるが、その他についても官民一体で進めていく。

**【委員】**

瀬戸内市に住んでいて進学などの都合で瀬戸内市を離れた人がUターンで戻ってくるような取組が必要だ。

**【企画振興課】**

Uターンで戻ってきていただくため、Uターンを誘発するIターンの取組となるようにしたいと考えている。Iターンの方が地域の魅力発信を積極的に行っていただいているので、Uターンの方にそれがうまく伝わり、循環ができればと考えている。

**【委員】**

映画館で上映した移住PR動画に対する反響や効果は如何か。

**【企画振興課】**

反響については把握していない。

**【委員】**

東京ばかりではなく、瀬戸内市に住んでいる人に対して移住関連補助金制度等のPRをすれば岡山市からの移住者も増えるのではないか。

**【委員】**

PR動画を見てとても良い内容だと思った。瀬戸内市は穏やかな気候で、波も静かで、時間もゆったり流れているイメージがあり、暮らしやすいところだと感じている。そういうところをもっとPRしたほうがよい。

**【企画振興課】**

実際にPR動画を見て興味を持っていただき、PR動画に出演していた人を紹介してほしいという要望を受けてご紹介したことがある。その方は瀬戸内市に移住された。いろいろな場所で発信することが必要だと考えている。

**【委員】**

岡山県はUターン率が低いというデータがあるので、Uターンを狙った施策を行うべきだと思う。同窓会や瀬戸内市を出ていった人の関係者に働きかけてほしい。また孫ターン（子どもがUターンしなければ孫に帰ってもらう）という形もある。

**【委員】**

副教材は今回初めて作ったのか。今年度の授業で使うのか。

**【企画振興課】**

平成28年度に作成したロゴマークを基本に昨年度に副教材を作った。内容は、市内の良いところを書き出してみましよう、良いところをマークに表現してみましようというもの。今年度の授業で行う予定。

**2 地方創生・瀬戸内 Re. イノベーションハウス整備事業（地方創生拠点整備交付金事業）**

**資料2**

**【委員】**

この施設を使いたいという希望が多数あるということだが、まだ決まっていないのか。

**【企画振興課】**

決まっていない。

**【委員】**

誰が事業者を決定するのか。

【企画振興課】

審査委員会にて決定する。審査委員は検討中だが、決める過程において公開プレゼンを行い、市民の方にも見ていただけるような企画を計画している。

【委員】

事業者を決める過程は是非オープンにしてほしい。

【委員】

事前説明会に参加した企業の中に地元企業はいたのか。

【企画振興課】

瀬戸内市内の事業者が1社、県内では岡山市内の事業者1社が参加された。その他、東京や神奈川の事業者である。

【委員】

できるだけ地元企業を使ってほしい。

●地方創生応援税制（企業版ふるさと納税）について（意見交換・質疑応答）

1 瀬戸内市 JR 駅前等整備プロジェクト事業 資料3-1

【委員】

この事業は企業版ふるさと納税だけを財源として行う事業なのか。

【建設課】

一般財源も使って行う。

【委員】

この事業で KPI を設定する必要があるのか。市民にアンケート調査を行い、期待値などについて KPI の指標にしては如何か。

【建設課】

ご意見を参考に検討する。

【事務局】

この事業は駅前整備を行うもので整備完了後に効果が出るものと考えているが、企業版ふるさと納税の制度を活用する場合は地域再生計画を策定する必要があり、地域再生計画を策定する際は必ず KPI を定めることになっている。ご了承いただきたい。

【委員】

企業側は寄付という形で想いを伝えている。今後、自動運転等、テクノロジーの発展で公共交通の在り方も変わってくる。長期的ビジョンを持って駅前整備を進めてほしい。瀬戸内市に暮らす子どもたちにどう伝えるかも考えてほしい。

【委員】

今後、電気自動車が増えてくるが、充電ステーションは作るのか。

【建設課】

現在のところ予定していない。

【委員】

市内で電気自動車の充電ステーションをもっと増やしてほしい。

【委員】

乗降者数について、トレンドとしては増えているのか。

【建設課】

ほぼ横ばいとなっている。

【委員】

もう少し上向きの目標を立てたらどうか。パークアンドライド駐車場は新たに設置するのか。

【建設課】

現在もある。数も同数で考えている。

【委員】

パークアンドライド駐車場を増やしたほうが良いのではないか。

【建設課】

敷地が限られており、増やすことが難しい。

【副市長】

本市の駅は、非常に遅れた昭和初期の駅であるという認識である。まず公衆トイレの改修、そして長船駅の橋上になっている部分の改修を行いたい。この駅前整備には、今回お示ししている企業版ふるさと納税に加えて、メガソーラーの地代なども財源としている。メガソーラー事業で受けるメリットの一つとして掲げて整備を行っていく。KPIについては現在の利用者数を下回らせないことが大きな目標だと思っているが、将来的にはもっと多くの利用者を獲得したい。

## 2 夢二のふるさと芸術交流プロジェクト **資料3-2**

【委員】

昨年度事業の反省点として、市民の現状の把握が充分ではなかったと思う。市民が活躍する様々な文化事業と日程が重なってしまったため、参加しようにも参加できない、関わろうにも関われない人たちが多くいた。イベントに市外からのお客さんが多いということはイベントのレベルが高いということ。関連施設への回遊性についても、市内の文化施設・観光施設とどう関わるのか企画をつくるべき。これだけの金額をつかうので、価値があるものにしてほしい。このような素晴らしいイベントに市民が関わるということは、シビックプライドにつながると思う。

【中央公民館】

今年度は市民主体の事業を増やしていく。音楽以外の分野で、映画鑑賞会、大正ロマンの着物の着付け、写真・書道の展示などを考えている。

【委員】

本イベントは誰が企画したのか。

【副市長】

竹久夢二は郷土が生んだ素晴らしい偉人ということで、竹久夢二を PR し、交流人口の

増加やシビックプライドの醸成を図っていこうという計画の下で、市が両備ホールディングス様に協力を仰いだ。委員からご指摘いただいたとおり、市民にイベントに関わっていただくことが地方創生の真たるところなので、2年目となる今年度はその点について改善していきたい。

## ●瀬戸内市太陽のまち創生総合戦略におけるKPIの状況について 資料4

### 【委員】

ファミリーサポートセンター利用件数について、策定時48件、昨年度実績249件、目標値53件と開きがある。

### 【事務局】

利用者の延べ人数で表しており、利用する者がある年は利用者数が増え、そうでない年は少なくなるため目標設定がしづらい。

### 【委員】

社会増減が大幅に改善した要因は何か。

### 【事務局】

要因分析はできていない。推計値は社人研の数値で、実績値は国勢調査の数値を用いているため、その影響もあると思う。

### 【委員】

20～39歳までの社会増減は大きくマイナスであるのに、全体ではプラスになっている。

### 【事務局】

10才未満の子どもと35～39歳の転入が特に多いため、子育て世代の転入が多いと考えられる。

## ●その他地方創生関連の取組紹介

### 【企画振興課】

- ・企業版ふるさと納税の説明（ハンセン病療養所世界遺産登録推進プロジェクト）